

# Financial Report

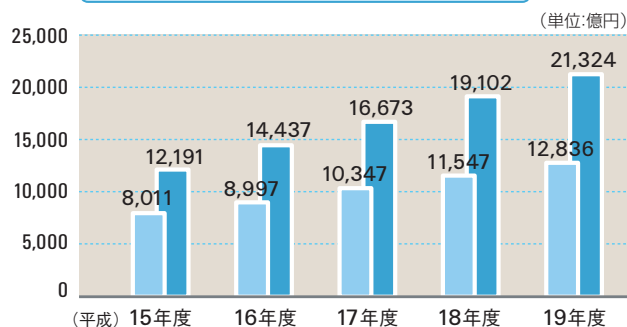
## 業績のご報告

### 財務ハイライト

売上高

**2兆1,324 億円**  
(前期比 +11.6%)

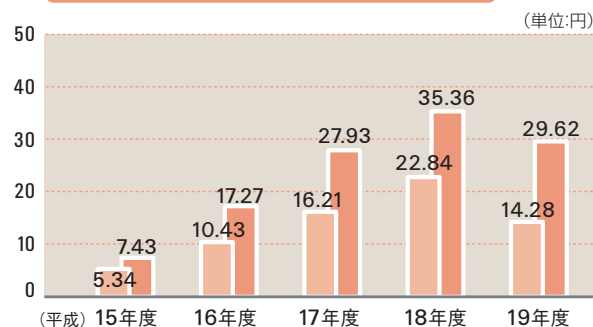
■ 単独  
■ 連結



1株当たり  
当期純利益

**29.62 円**

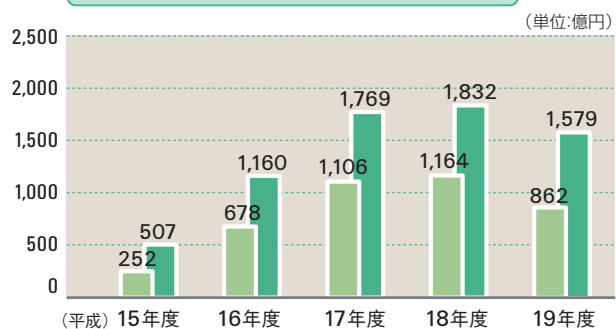
■ 単独  
■ 連結



経常利益

**1,579 億円**  
(前期比 -13.8%)

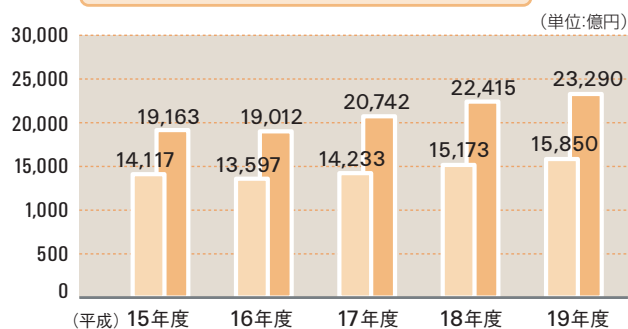
■ 単独  
■ 連結



総資産

**2兆3,290 億円**

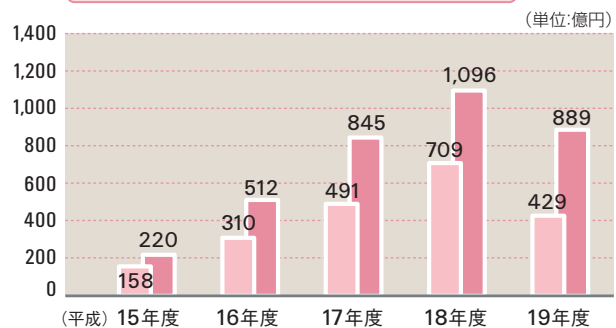
■ 単独  
■ 連結



当期純利益

**889 億円**  
(前期比 -18.9%)

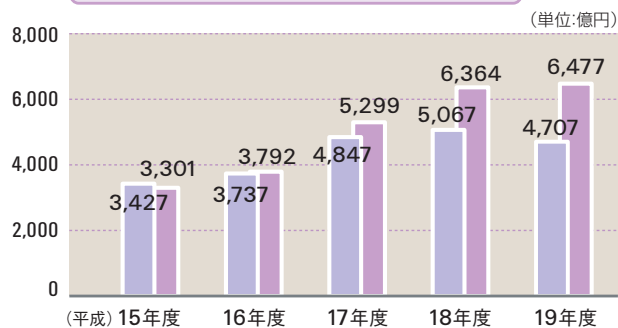
■ 単独  
■ 連結



純資産

**6,477 億円**

■ 単独  
■ 連結



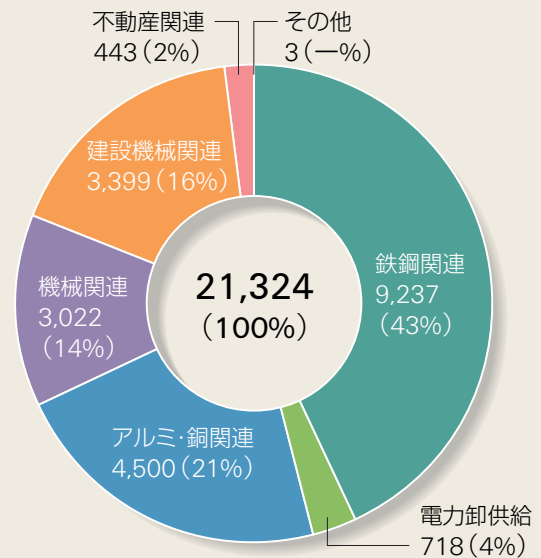
(表示金額は、単位未満の数字を切り捨てております。)

## 当期の概況

当期のわが国経済は、前半は、企業収益が高水準で推移する中、民間設備投資が引き続き増加し、雇用者所得が緩やかな増加を続けるもとで、個人消費が底堅く推移するなど、景気は緩やかに拡大いたしました。しかしながら、後半は、住宅投資の落ち込みやエネルギー・原材料価格高騰の影響などから、景気は減速いたしました。一方、海外においては、米国に減速感は見られるものの、アジアを中心に経済が拡大いたしました。

当期の連結業績は、売上高が、需要の好調な鉄鋼、建設機械などを中心に増加し、前期に比べ2,221億円増収の2兆1,324億円となりましたが、営業利益は、税制改正を受け減価償却方法を変更したことに伴う償却費の増加などにより、前期に比べ62億円減益の2,023億円となりました。また、経常利益は、高炉改修に伴う解体・廃却費用が発生したことなどから、前期に比べ253億円減益の1,579億円、税引き後の当期純利益は、子会社の一部事業の再構築にかかる特別損失を計上したことなどから889億円となりました。

セグメント別売上高(平成19年度) (単位:億円)



(注)「その他」には「電子材料・その他の事業」の売上高607億円とセグメント間の内部売上高等の消去額-604億円が含まれておりますので、上記円グラフ「その他」の金額は3億円となっております。

## セグメント別の概況 (枠内の数字は売上高を記載しています)



### 鉄鋼関連事業

9,237 億円  
(前期比 +11.2%)



国内・海外とも鋼材需要は拡大し、好調に推移しました。

- 鋼材需要が国内外ともに好調に推移し、鋼材出荷数量は前期比増。
- 販売価格は、特殊鋼を中心に値上げを実施し、前期比上昇。
- 鋳鍛鋼品、チタン製品ともに売上高は前期比増。
- 溶接材料は、需要が堅調で、売上高は前期比増。
- この結果、売上高は前期比11.2%増の9,237億円。

- 営業利益は、減価償却方法の変更影響などにより、前期比26億円減益の919億円。



加古川製鉄所 厚板工場



### 電力卸供給事業

718億円  
(前期比 +7.5%)



安定操業と収益の確保に  
努めています。

- 現在、神鋼神戸発電所では、最大出力140万キロワットの電力を供給。
- 売上高は、前期比7.5%増の718億円も、電力単価に転嫁される石炭価格の上昇によるものであり、営業利益は前期並みの180億円。



神鋼神戸発電所(タービン棟)



### アルミ・銅関連事業

4,500億円  
(前期比 +13.3%)



重点分野である自動車、IT関連  
向けは好調に推移しました。

- アルミ圧延品販売量は、飲料用缶材が好調、自動車向け部品材、エアコン用フィン材も堅調に推移し、前期比増。
- 銅圧延品販売量は、銅板条が堅調に推移も、空調用銅管が減少し、前期比減。
- アルミ鋳鍛造品は、自動車向け鍛造品の増加により、売上高は前期比増。
- 売上高は、販売量の増加、地金価格高騰による販売価格上昇により前期比13.3%増の4,500億円。

- 営業利益は、地金の在庫評価影響が減少し、前期比126億円減益の220億円。



アルミ板コイル



### 機械関連事業

3,022億円  
(前期比 +7.6%)



受注高は、前期比10%増の  
3,397億円、当期末受注残高は  
3,775億円と受注環境は好調です。

- 国内向け受注高は、圧縮機、圧延機械などが堅調も、環境分野で大型案件受注がなく前期比13%減の1,575億円。
- 海外向け受注高は、大型のペレットプラントや酸素製造装置を受注、圧縮機や樹脂機械、石油精製用の高圧容器などの受注が高水準で推移し、前期比43%増の1,821億円。

- 営業利益は前期比83億円増益の305億円。



ボイルオフガス用超低温圧縮機



## 建設機械関連事業

3,399 億円

(前期比 +19.1%)



中国市場の活況の影響などに  
より好調に推移しました。

- 油圧ショベルの国内市場は、前半は好調も、後半は住宅投資の落ち込みから需要の拡大に減速傾向。海外は、米国市場を除き、中国市場を中心に総じて好調に推移。
- クレーン市場は、北米や中東、東南アジアを中心に旺盛な需要が継続。
- 当事業の売上高は前期比19.1%増の3,399億円、営業利益は前期比80億円増益の228億円。

シティコンシャスクレーン  
PANTHER-X250

## 不動産関連事業

443 億円

(前期比 +7.1%)



不動産事業・プロパティマネジ  
メント事業とも安定した事業運  
営に努めました。

- 当事業の売上高は、不動産販売事業を中心に前期比7.1%増加し443億円。
- 営業利益は、賃貸事業における一時的な費用の増加などにより、前期に比べ3億円減益の49億円。



フェリシオ塚口

電子材料・  
その他の事業

607 億円

(前期比 -4.5%)



配線膜用ターゲット材は減少し  
たものの、試験分析事業は好調  
に推移しました。

- 輸送機・エレクトロニクス業界向けを中心に試験分析事業は好調に推移。
- 液晶ディスプレイの在庫調整の影響、代替素材との競合により、配線膜用ターゲット材の販売量の減少影響大。
- 売上高は前期比4.5%減の607億円、営業利益は前期に比べ61億円減益の81億円。



低温ポリシリコン薄膜評価装置